

福島県 英語指導力向上事業 平成30年度～令和2年度

福島県の課題

- 小学校の外国語教育の拡充・強化
- 中・高等学校におけるCAN-DOリストの形で設定した学習目標に基づく指導と評価改善の促進・充実
- 担当教員の英語力向上と、授業改善への意識の向上

- ・外部専門機関（福島大学、宮城教育大学）との連携による、授業改善を踏まえた、教員の英語指導力向上とその研究成果の普及・周知
- ・指定した地域内（会津若松市内）における小中高連携による授業改善
- ・英語担当教員の英語力向上とともに指導力向上のための研修の充実

具体的な取組内容①

研修協力校3校（会津若松市立城西小学校、会津若松市立第三中学校、県立葵高等学校）による公開授業・授業研究を実施 ※全県に公開

会津若松市立城西小学校

指導助言：宮城教育大学准教授
鈴木 渉 先生

会津若松市立第三中学校

指導助言：福島大学准教授
高木 修一 先生

県立葵高等学校

指導助言：福島大学教授
佐久間 康之 先生

※平成30年度、令和元年度では全県に公開

具体的な取組内容②

ブラッシュアップ研修の実施、研修の充実

成果

- 異校種間の連携により、児童・生徒の英語学習の過程を確認することで、それぞれの校種におけるゴール設定がしやすくなった。
- 研究授業参観・研究協議を通じた意識の向上
 - ・異校種での活動について理解が深まった、小中高接続についての理解が深まった、小中高での学習のつながりを実感、CAN-DOリストの活用について意識の向上、言語活動の充実へ向けたヒントとなった。

CAN-DOリストの整備状況

	H29	H30	R1
中学校	65.6%	76.1%	80.7%
高校	100%	100%	100%

- CAN-DOリストの整備が進んだ。
- 言語活動の充実に向けた取組が進んだ。

成果の波及・周知について

- 各研修による周知
- 校長会、教頭会との連携
- 外国語教育だより(English Wind)の発行(義務教育課)による周知
- 英語教育の指針を示したEnglish Compassの発行(義務教育課)による周知



課題

- ①小学校の外国語教育の拡充・強化に向けて、研究協力校の取組を効果的に波及させること。
- ②CAN-DOリストを活用した指導と評価の実践。
- ③パフォーマンステストの実施方法と適切な評価方法の研究。

課題解決へ向けた手立てと今後の方向性

- ①本県独自の推進プランと関連づけ、従来の取組を整理・分析し、研究を深め、その成果をさらに広めていく。
- ②各校において、CAN-DOリスト形式による学習到達目標の公表及び学習到達目標の達成状況の把握に努める。
また、特に「話すこと(発表・やりとり)」「書くこと」に係るCAN-DOリストの評価基準と指導方法について研究し、発達段階に応じた指導を可能とする。
- ③テーマ設定による公開授業及び授業研究を開催する。
 - ・小中高で共通の視点からの授業研究
 - ・小中高での情報共有